

井原議員（広志会）

令和5年2月13日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）組織の風土改善に向けた取組について

教育長が変わらなければ何も変わらないと思うが、教育長の所見を伺う。

（答）

まず、この度の一連の問題が生じた責任は、全て私にあると考えておりません。

改めてこの度の一連の問題に関しまして、県民の皆様にも多大な御心配と御迷惑をおかけいたしましたして、誠に申し訳なく思っております。

これまで、現場主義を掲げ、風通しの良い職場づくりに努めてきたところでございますが、弁護士による調査におきましても、職員の側から忌憚のない意見具申ができ、その意見具申に耳を傾ける、という組織風土を十分に整えられていなかったということが指摘されているところでございます。

私自身、民間活力を活用する手法におきまして、行政として行うべき手続に対する意識が不足していたと考えております。

また、現場主義を掲げながらも、職員の声を十分にくみ取ることができていなかったと反省しております。

現在、弁護士による調査において指摘された組織風土などの問題点につきまして、県教育委員会事務局に、知事部局の職員も加えましたプロジェクト・チームを設置するとともに、有識者からの意見聴取を行いながら、改善策について、議論を進めているところでございます。

この議論の中では、現時点で、大きく3点

- ・ 職員が納得感をもって業務を進める雰囲気づくりと、私を含め、その構築に向けた姿勢、
- ・ 前例のない先進的な事業を実施する際の業者選定も含めた事業の進め方、
- ・ その事業の実施に当たり、教育内容に通じた教育職と、事務手続きに通じた事務職の連携の在り方

などの課題が挙げられております。

また、改善の方向といたしまして、

- ・ 職場の心理的安全性の向上、
- ・ コンプライアンス意識の向上、
- ・ 不祥事を防止する仕組みづくり

について検討を進めておりますが、これに加えて、私自身のマネジメントについても、しっかり改善を図ってまいりたいと考えております。

今後、改善策につきまして、できる限り早くまとめ、実践に移してまいりたいと考えております。

私自身も、サポート型のマネジメントを徹底し、風通しの良い「安全で安心な職場の中で教育改革を着実に進めていく」という組織文化を作り上げてまいりたいと考えております。